

令和4年度  
ラボラーレ事業報告書

社会福祉法人ふれあいの里

## 令和4年度ラボラーレ事業報告書

### 1.はじめに

関係法令を遵守するとともに『法人の理念』に基づき、利用者の意思及び人格を尊重し適切且つ良質なサービスの提供を行うことをあたりまえに、一人ひとりとの関わりを大切に令和4年度も過ごして参りました。そして昨年度に続き、コロナ感染症対策に注力しながら安心・安全に過ごせる場を提供するため奮闘する日々でした。令和4年度は職員間でのテーマを『チームワーク』と掲げ、チームワークこそが最良のサービスに繋がることを念頭に取り組み、その中で職員一人ひとりが一生懸命、持てる力を十分に発揮し取り組む毎日でありましたが、時にお互いの心の余裕のなさを感じることもあり、職員個人の良さを発揮しかねている時もあったと感じています。しかしこれまでの繋がりを大切に取り組んでいることで、多くの気づきや改めて考える機会を頂き成長できたこともありました。社会の変化、職員の入職、退職など変化への対応が利用者様も職員も求められた年でもありましたが、掲げた『チームワーク』でその時、その時を乗り越え、積み重ねた年でもあったと感じています。

### 2.職員の配置状況

職名	施設長	サービス 管理責任者	看護師	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成 指導員	機能訓練指導員 (嘱託)	医師 (嘱託)
定数	1	1	1	14	1	1	1	1

### 3.登録利用者の状況（令和5年3月31日現在）

#### (1) サービス区分毎 男女別登録利用者の状況

サービス区分	定員	登録現員		計
		男	女	
就労継続支援B型	20名	11名	8名	19名
就労移行支援(休止中)	0名	0名	0名	0名
自立訓練(生活訓練)	6名	3名	1名	4名
生活介護	14名	8名	13名	21名
日中一時支援	5名	5名	5名	10名
合計	45名	27名	27名	54名

(ただし男1名は、生活介護と日中一時支援の重複登録)

(2) サービス区分毎 地区別登録利用者状況

サービス区分	定員	市町村	計	合計
就労継続支援B型	20名	石巻市	17名	19名
		東松島市	1名	
		登米市	1名	
就労移行支援	0名			0名
自立訓練(生活訓練)	6名	石巻市	3名	4名
		東松島市	1名	
生活介護	14名	石巻市	16名	21名
		東松島市	2名	
		登米市	2名	
		南三陸町	1名	
日中一時支援	5名	石巻市	8名	10名
		東松島市	1名	
		登米市	1名	

就労移行支援：休止中

(3) 性別・年齢別の登録利用者状況

年齢区分	男	女	計
～14歳	0名	0名	0名
15歳～19歳	0名	1名	1名
20歳～29歳	15名	9名	24名
30歳～39歳	5名	9名	14名
40歳～49歳	1名	3名	4名
50歳～59歳	2名	4名	6名
60歳～69歳	2名	1名	3名
70歳～	1名	0名	1名
計	26名	27名	53名

(4) 障害の状況

障害の状況	男	女	計
身体障害	8名	14名	22名
知的障害	19名	20名	39名
精神障害	5名	2名	7名
手帳なし	0名	0名	0名
(内) 重複障害	6名	9名	15名
合計(重複含めず)	26名	27名	53名

#### 4. 事業毎の稼働率状況 (単位%)

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続支援 B 型	20名	81	77	83	82	74	82
自立訓練 (生活訓練)	6名	31	28	32	33	29	31
生活介護	14名	102	104	109	110	97	103
日中一時支援	5名	65	65	64	69	63	55

	定員	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
就労継続支援 B 型	20名	82	83	75	83	84	81	80
自立訓練 (生活訓練)	6名	32	31	33	48	48	48	35
生活介護	14名	105	100	97	101	99	102	102
日中一時支援	5名	58	54	64	64	74	88	65

※就労移行支援は休止中

#### 5. 作業種別及び部門毎の活動状況

##### 就労継続 B 型

令和 4 年度は目標にしていた工賃 1 万 5 千円以上を達成は未達成の結果となっている。

(令和 4 年度 ¥10,649 円)

##### (1) パン事業

###### 【総評】

個別支援計画に基づきながら、一人一人の障害特性に合わせ支援にあたった。販売活動を通じて楽しみや、やりがいを感じられるよう、また、お客様とのやり取りに自信をもってできるよう、職員自身が見本となり、笑顔で丁寧な接客を心がけて参りました。

令和 4 年度の目標額 3,750,000 円に対して、2,583,155 円の売上となっている。好評を頂いているイベントパン等の配達では送迎時に配達してもらうなど、全体での協力を得ながら柔軟な対応をすることができ、前年よりも約 24 万円売り上げが UP した。

###### 【令和 4 年度掲げた課題】

- ① 個々の特性を活かし、目標達成が出来るよう、作業の細分化と見直しが必要とされている。
- ② 販路の拡大・開拓。定期購入していただける固定客の獲得。
- ③ 生産性の向上。
- ④ 新商品の開発。原材料の高騰に伴い、価格帯の検討と見直し。
- ⑤ 発注業務・在庫管理ができる職員を増やし層を厚くする。
- ⑥ 衛生管理、異物混入防止。

### 【取り組み報告】

- ① 生地分割・計量、パイやブレッドの成形、袋入れ、洗い物、拭き方、ラベル貼り、接客の挨拶等の発声練習、販売活動など多岐に渡り、一緒にステップアップできるよう支援している。

他者と関われる作業、意思表示の機会提供、場に適した言葉使いの訓練等を提供している。個々の能力に応じた作業提供を心がけ、自信に繋がるよう支援している。施設内ではパン給食の提供にあわせて、デザートも製造している。デザート作りの工程では、盛り付けや計量など取り入れ、家庭でも役割やつながりが持てるような支援を行っている。利用者様の作業能力が向上すると、ご家族からも、喜びの声をいただいております。
- ② 固定客においては、毎週、食パンや、ブレットを購入頂けるお客様もあり、外部販売については、要望を受けたところには販売に行き、販路の拡大に努めた。(桃生支所・河北支所・石巻駅前イオン店・RG コンテナ・東北電子・社協桃生・社協河北・社協河南の8ヶ所) ※前年より2箇所増。
- ③ 個々の得意を活かし、能力を伸ばす事で生産性向上を図った。

販売活動が活発に行われるように、ご利用者様のモチベーションを維持し、意欲的に取り組めるように接客訓練も作業時間に取り入れている。発話の機会も増え、ご利用者様のニーズに応じた訓練にも繋がっている。
- ④ 商品開発としては、季節毎の期間限定商品、イベントパンに力を入れ、試行錯誤しながら挑戦し続けている。定番商品数の見直し、価格の見直しについても改正し値上げをせざる得ない状況であったが、接客マナーに力を入れる対応でお客様に満足感を感じて頂けるよう努めた。
- ⑤ 令和4年度からパン作業部門に新たな職員が入ったが、製造工程を把握することを最優先とし在庫管理、発注業務は従来の職員が対応し課題にあげた取り組みについては現状追いついていない。
- ⑥ 安全に作業を行い、安心して美味しく食べて頂くために、作業前の体調チェック・衛生チェックを利用者様、職員ともに行っている。異物混入には十分に気を付けており、製品に髪の毛や袋の破片等が混入しないように皆で確認しながら作業に取り組んでいる。HACCPの衛生管理に基づきながら、衛生教育としてご利用者様にも意識を高めて頂けるよう、調理器具や冷蔵庫の取手等の手が触れる箇所の除菌作業にも取り組んでいただいている。販売の際には、手指消毒をしっかりと行ったうえで、手袋・マスク・フェイスシールドを着用し、お客様にはトングを使用、金銭の受け渡しではコイントレーを活用し感染防止対策をしっかりと取りながら販売活動にあたった。

## (2) 厨房作業

### 【総評】

長年、厨房作業に従事している利用者様もいる中で、初心を忘れず衛生面を徹底しながら安心・安全の作業を心掛けて参りました。コロナの影響で弁当注文は伸び悩みましたが、作る際は丁寧に心を込めてお客様を大切に努めて参りました。時間に追われる作業ではありますが、声を掛け合い協力しながら進めて一人ひとりが向上するよう努めました。

### 【令和4年度掲げた課題】

- ① 作業ありきにならないように意識しながら進める。
- ② 利用者様への作業指示が的確にできていない時がある。
- ③ 衛生面の徹底。異物混入なく安全な食事提供に努める。
- ④ 感染防止の徹底。
- ⑤ 安全の確保。
- ⑥ 収益アップ。
- ⑦ 支出費用の減。

### 【取り組み報告】

- ① 個別支援計画をもと、個々の目標を達成できるような声掛け、支援を意識して行ないましたが、限られた時間で昼食を作らなければいけない為、時間に追われ、作業ありきなる場合も見受けられました。達成できている目標もあれば、なかなか伸び悩むこともあり今後も継続的な課題です。
- ② 障がい特性に応じ、伝え方を工夫し作業を行ないました。伝わりにくい場合は、個別に対応し、そばに寄り、目と目を合わせて伝える、紙に書き視覚的に伝えるなど、柔軟に対応することで指示が的確に伝わり作業も安定して行えることもありました。
- ③ 衛生面は手洗いが不十分な利用者様もおられるため、衛生教育を行いながら手洗いの基本をしっかりと身につけて頂けるように、支援して参りました。
- ④ 感染対策は、ビニールシートの活用、マスク、アルコール消毒などを徹底しました。コロナに感染してしまう利用者様もおられましたが、大きく感染を広げることなく業務を行なえました。個々に体調管理をして頂きながら、作業前は必ず、体調の確認を行ってから、作業に従事して頂きました。皮膚トラブルになる利用者様もおられ、家族と連携を取りながら、早めの通院を促し協力を頂き安全・安心の食事提供ができました。清潔を心がけ、身だしなみを整えて頂くように徹底した声掛けは今後も継続です。

- ⑤ 安全な作業を行なえるように、環境整備、一人一人が声を出し合いながら作業を行ないましたが、作業に集中してしまうと、声掛けを忘れがちになる場合も見受けられましたが、互いに気に掛け合うことで大きな怪我、事故無く業務を行なえました。
- ⑥ 弁当やランチのバリエーションは季節に応じて旬の食材を使用するなど行ないました。弁当の注文や外部販売も増えてきている状況でありましたが、収益アップについては目標売上には達成することができませんでした。
- ⑦ 消耗品の支出費用については、衛生上こまめに手袋の交換も行う為、大きく減ることは無かったですが、作業の準備や工程の工夫を行ない、無駄のない使用に努めました。今後も継続し意識して取り組むことで、一人ひとりが大切に使用する行動に繋がっていくと確信しています。

### (3) F & C (ファームクリーン) 作業

#### 【F&C 全体総評】

利用者様支援に於いては、日々の利用者様の体調やストレス状況を観察し、送迎職員からの申し送り、家族からの情報を元に、利用者様とのその日の関わり方や支援の方法などを事前に職員間で共有・相談しながら一日の作業を開始してきた。利用者様を支援するにあたり、個別支援計画の目標を意識し、今何が大切か、何を支援すべきかを考えて作業へ関わり、利用者様自身の気づきや取り組みを大切にしながら利用者様と共に振り返りをし、次は何を意識して取り組むべきかを言葉で伝え、本人の成長や自信、達成感に結び付くよう取り組んだ。

令和 4 年度の公園管理は、431,000 円と前年と大きく変わらず、イチゴは取引先の要望に沿ったイチゴの栽培が思うように出来ず、手入れについても当初の予想と違った結果となり収量の減少を招き、計画を大きく下回る結果となってしまった。

野菜の栽培は、定期的に市場単価を調査しながら、値段を見直し 1 円でも高く販売できるよう取り組んできた。イオンやイトーヨーカドーなどへの外部での販売がコロナ禍の影響で再開できなかったが、その分、ファーストギルドを經由して県内ウジエスーパーへの販売を展開できたことにより、収穫した全数を残すことなく、全て販売に結び付けることが出来、野菜の売上では大きく貢献することが出来た。

令和 4 年度は売上計画 3,980,000 円に対し、実績が約 2,752,203 円で、69%の達成率となり、令和 5 年度への売上アップに対し、課題解決に努めていきます。

#### ■公園管理（登米市受託・登米市内公園 3 か所）

【総評】令和 4 年度も作業受託金額において事前に登米市と交渉を重ねては見たが、市の予算にも余裕がないとの理由で、令和 3 年度比 1,000 円アップの 431,000 円で購入している。

施設外就労を希望される利用者数も 3 名となり減少傾向にあったが、ひとり一人としっかり向き合う時間が増え支援にあたる事が出来た。年間を通して外作業でもある為、体調面には気を配りながら事故や怪我も無きように作業開始時に事前説明と準備をしっかり行う事で事故防止に努めた。利用者様には作業を行わなければいけない経緯や自分たちの役割を説明し、自分の作業に責任を持つことを意識して取り組んで頂いている。作業を終えた時点で、作業前の状況と比較し、何が変わったのかを言葉で伝える事で、自信や達成感に結び付くよう心がけてきた。互いのコミュニケーションにおける課題は残ったが、地域の方々とお会いした際の挨拶などを欠かさないようにし、地域との交流も意識して取り組んだ。

#### 【令和 4 年度掲げた課題】

- ① 利用者様個々の作業内容に対する理解度が異なる為、利用者様の特性を踏まえて、その人その人に合った作業説明や作業を提供する必要がある。また作業の成果が自分で感じ取れるよう振り返りを行い、作業における達成感を感じられるように配慮が必要である。
- ② 利用者様の体調やストレス状況を踏まえて、支援方法の変更や作業の内容を見直すなど随時配慮が必要である。
- ③ 地域社会と関わりを持つことで、より日頃から社会的マナー、身だしなみ、コミュニケーション等の重要性を意識して頂けるよう、支援、対応が必要である。

#### 【取り組み報告】

- ① 毎回、作業を開始するにあたり、その日の利用者様の様子観察を行いながら、個々に合った説明を実施し、作業内容への理解度を深め、事故やケガに繋がらないよう進めてきた。作業の終わりには、自身の作業の前と後の違いを振り返りながら成果を自分自身の目で確認して頂く機会を設けながら取り組んだ。
- ② その日の利用者様の体調やストレス状況を見て、作業内容まで変更することは無かったが、作業への取り組む姿勢、態度について状況を見ながら言葉で語り掛け対応している。そうすることで作業中は落ち着いて取り組むことが出来ていた。
- ③ 地域社会との関りに於いては、主に挨拶を交わす機会しかないが、知らない方でも笑顔で挨拶するという事を重要視してきた。利用者様の様子を見てみると、笑顔は難しいが声がけする事で挨拶を行うことは出来ており、公園管理の清掃を障がい者の方たちが行っている事、地域の中で役立つことを知って頂ける様、地域社会とのコミュニケーションを深めていける様現在も取り組んでいる。



## ■イチゴ生産

【総評】令和4年度は昨年同様1600株の作付で新たに1社販路を増やしスタートした。これまでの経験を活かし、定期的な病害虫防除を進めたこともあり大きな被害を受ける事もなく栽培出来ている。令和4年度は出荷先の洋菓子店からの要望で、出荷先毎にイチゴの大きさが異なり、F&C職員のみでは工数が不足となり他職員の応援を頂きながら手入れ等を実施している。手入れについても定期的に話し合いは続けていたが、出荷先に見合った大きさに合わせこむ手入れが行き届かず、8月以降は出荷先が1社のみしか対応できない状態となり、大きく売上予想を下回る結果となってしまった事が大きな反省として残る。またイチゴの収穫が夏場の高温時期となる為、利用者様にはその日の天候や気温を考慮し、可能な範囲の手入れに絞って作業を行って頂いている。本来であれば、収穫から納品準備までを利用者様にも関わってほしいと考えているが、体調面などを考えると限定的な関りでしか携わることが出来ないのが現状である。令和5年は考えられる課題を予め想定し、事前に対策を施しながら、利用者様にももう少し幅広く関わられるような環境と準備を進めていきたいと考えている。

### 【令和4年度掲げた課題】

- ① 利用者様にはイチゴ栽培で主に収穫や手入れの一部に携わって頂いているが、作業での役割、必要性、重要性をしっかりと分かりやすく説明する事で作業へ責任感をもって関わられるよう働きかけていく。
- ② 夏場の気温が高くハウス内での作業が困難になり、イチゴ栽培に携わる作業時間が減少している。
- ③ 売上金額の進捗を定期的に振り返りながら、販路拡大も随時検討し、売り上げの拡大を図る。

### 【取り組み報告】

- ① イチゴ栽培に於ける利用者様の関わりとして収穫も考えてはいたが、利用者様が作業を開始する時間帯にはハウス内も45℃を超える気温となる為、イチゴの収穫には環境的に適さず品質の低下を招いてしまう為、その作業は職員が手掛けている。出来るだけ関わられるような作業の開拓を続けては見たが、利用者様が唯一作業できるのは手入れのみという結果であった。高温の中での作業でもあった為、利用者様の集中力も長続きせず、こまめに休憩を取り入れながら体調面に配慮し、同じ手入れ作業ではあったが、経験を繰り返す中で作業の上達も見られ、自身の達成感、やりがいにも繋がっていると感じている。

- ② ハウス内の気温が夏場は異常に高くなる為、各個人の体調を個々に確認しながら、休憩をこまめに取り入れ、体調を崩さぬよう見守りながら作業を続けてきた。
- ③ 売上金額の進捗を管理しながら進めてはいたが、8月以降の手入れ後の結果が予想していたものと異なり、収量が減少し出荷先の要望に沿うことが出来ず、出荷数量の減少を招くことになってしまった。これらの状況により、売上見込みから大きく下回る結果に繋がってしまったことが反省として揚げられ、今後の解決すべき課題である。

#### ■野菜・受託作業

【総評】コロナ禍により対面販売が行えない中で、(有)ファーストギルドを通じて県内ウジエスーパーの不揃いコーナーへ野菜の納品を柱に収入の確保に努めている。令和4年度は主力のねぎの他、にんにくやサニーレタス、ほうれん草など消費者様のニーズに合わせた野菜を栽培し、一年を通して納品した事で県内スーパーより¥402,884の収入を得ており、前年度を大きく上回っている。

また、昨今の世界情勢による肥料や資材の値上げにより、軽費を抑える努力が求められたが、新たに購入するのではなく、在庫の活用や近隣の業者より堆肥を格安で仕入れるなど、最小限の出費にとどめた。その他、利用者様やご家族様へ向けた内部販売も行い、新鮮で安心安全な野菜を売りとして販売し好評を得ている。受託作業においては、近隣のアシュウ園芸からの花の栽培に関する作業、伊藤木材からの薪入れは継続して行っている。更に、今年度は(有)KENより液肥のラベル貼りやラッピング作業も新たに請負っているが、目標達成の売上には至らなかった。

#### 【令和4年度掲げた課題】

- ① 利用者様一人一人の強みを活かし可能性を引き出せる支援は今後も継続して取り組み、ニーズの達成と生産性の向上の達成を両立していく。
- ② 夏季にはイチゴ生産とねぎ栽培、公園管理、園芸農家からの請負作業と多岐に渡る。気温も高温になり利用者様、職員の健康管理にも留意していかなければならない。安心安全と丁寧で確実な作業を行う必要がある。
- ③ 冬季には作業が減少する。薪の箱入れ作業の確保や、ねぎの長期保存に努め作業の確保に尽力したが、薪に関しては先方の都合や安全面の確保が難しい状況があり目標収入額の見直しが必要。ねぎに関しては、厳冬期になる前に収穫をし、温室内に保存の予定であったが、収穫が間に合わずに寒さによるねぎの品質低下と収量減少にも繋がっている。  
それにより予定していた薪作業、ねぎ製品化の作業提供も減少している。
- ④ 今後も請負作業や一般のお客様に向けての野菜販売を行う事への責任感と衛生面への意識をさらに高めていかなければならない。また関連するすべての方々との、人と人との繋がりを大切にし、利用者様へもその大切さを伝え続けていく必要がある。

#### 【取り組み報告】

- ① 利用者様の特性を把握し、得意を最大限に活かす事はもとより、協力作業を取り入れる事で、不得意を補い合い、利用者様の可能性を最大限引き出せるよう支援を行なった。
- ② 作業が多岐にわたる夏季には、職員間でより綿密に事前計画を組み立て、作業を効率良く行う事で納期に遅れが生じないように取引先の信用、信頼の維持を図った。利用者様の体調面に配慮し、作業場所を室温の上がるハウスや温室内を避け、風通しの良い外の日陰で扇風機を利用し作業を行っている。
- ③ 冬季の作業確保については、主力となるネギの製品化作業をより細分化する事で、一人でも多くの利用者様に関わって頂けるよう作業を組み立ててきた。ネギの長期保存においては、室内にて鮮度を保ちながらの保存に努め、全て出荷するに至ったが、2月後半に出荷したねぎは、収穫してからの時間が経過し過ぎていた為、品質低下により価格を引き下げざるを得ないネギもあり、今後の課題となっている。
- ④ 自らが取り組んでいる作業の役割や重要性、目標を明確に分かりやすく伝える事で、仕事に対する責任感や意識の向上に努めた。また、請負作業で外部の方々に関わる際の挨拶やマナーなどの重要性を日々の訓練の中で繰り返しお伝えし、実践を意識した取り組みを行っている。

#### (4) 生活介護部門

##### 【総評】

感染症対策を継続し、利用者様一人ひとりの心身状況を把握しながらのサービス提供を行い、安定した通所につなげられるよう日々取り組み、一年を通して100%前後の稼働率を維持することができた。活動内容として、利用者様一人ひとりの個別支援計画に基づいたサービス提供を心掛け、一人ひとりに応じた運動や創作活動、レクリエーションを実施してきた。その中で、支援計画の把握や活動内容の工夫、職員に応じて利用者様との関係性に差異があるなど課題となる部分も感じられた。利用者様一人ひとりの満足度を高められるよう、日々のやりとりや関りを大切に、職員一人ひとりの意識や介護技術の向上が今後も必要である。

### 【令和4年度掲げた課題】

- ① 利用者様の心身の健康維持と安定した通所の確保。
- ② 感染症対策の徹底とコロナ禍におけるサービス提供のあり方の検討と実践。
- ③ 個別支援計画に基づいた、根拠と見通しのある丁寧なサービス提供。
- ④ 利用者様の声を聴き、気持ちに寄り添い、状況に応じた最良の環境下でお過ごしいただくための方法や環境の提案と提供。
- ⑤ 職員一人ひとりが現場の状況把握と統括ができるスキルを獲得し、より円滑かつに連携のとれた安定したサービス提供の実現化を図る。

### 【取り組み報告】

- ① 乗車前の体調確認や通所後のバイタル測定を実施、連絡帳の活用などご家族とも連携を図りながら、利用者様一人ひとりの心身状況の把握に努め、支援を行った。  
その日の利用者様の心身状況の確認、把握を行い、それに応じた活動提供を行った。
- ② 活動前後の手洗い、手指消毒の徹底、定時で換気を行う。また、活動中の人数や密にならないよう活動内容の工夫も行い、取り組んだ。
- ③ 一人ひとりのアセスメントの再確認、個別支援計画の把握を行いながら活動内容の工夫を行ってきた。職員が利用者様一人ひとりの個別支援計画に基づいたサービス提供を行えるよう努めてはいるが、課題や計画の把握は不十分であると感じることもあり、日々の変化に目を向けながら対応力を磨いていく必要がある。  
その中で運動や創作活動、レクリエーションなど一人ひとりに応じた内容で実施し、可能性を広げられるよう様々な活動内容の工夫を行っている。
- ④ 個別での活動、集団活動のバランスを考えサービス提供してきた。やりとりや関りを通して、特に声に出すことが難しいご利用者様には表情や仕草を感じ取りサービスの質の向上や心の満足度につながるよう意識した関わりを行ってきた。  
また毎月の身体拘束廃止委員会やその時々ヒヤリハット、事故の分析を行いながら、他部門の職員からも意見を頂きながら安全面についても意識向上に努めた。
- ⑤ 支援側も職員一人一人の気づきの視点を磨きながら、成長できるよう新しい知識や介護技術を身に付け、それらを職員間で共有しながらより良いサービスを提供できるよう努めてきた。その中で問題点や課題を共有しながら統一した目標の下、利用者様の支援に当たってきたが、一人ひとりの対応力を問われることも多くあった。目の前のことだけにとらわれず、広い視野をもって思いやりのある声掛けと、改めてやりとりや関わりの中で、関係性の構築が必要と感じた。

〈運動として〉

○理学療法士に身体状況を確認いただいたうえで、指導や助言を受けながら運動機会を提供している。マッサージ、ストレッチ、歩行器や平行棒を使用した歩行運動等。

（個人の身体状況や運動内容の記録と管理）

- ベグ・洗濯ばさみ・将棋の駒等を利用した指先の運動
- レクリエーションを通しての全身運動
- 創作活動や手あそびを通しての手や指先の運動
- 通所後の集団体操と個別運動の実施

〈レクリエーション活動として〉

- 棒やセラバンド等を使用しながらの体操・音楽にあわせたダンスや全身運動・音楽鑑賞・ボールゲーム・宝探し・卓球・ボウリング・釣りゲーム等の体を動かす運動
- 季節行事の催し物の実施
- 塗り絵や折り紙等の創作活動
- 季節ごとの施設内装飾物の作成と掲示
- 書道展やアート展へ向けた作品制作と出展
- 植物の定植と管理しながらの施設内の環境美化活動
- 近隣公園への散歩と植物鑑賞の機会提供
- 施設全体行事としてのピクニックの実施

〈生活介護利用者様への作業提供・訓練として〉

- マット・スリッパ台・フロア備品等の拭き掃除
- トイレで使用する新聞のたたみ方と備品の補充
- 給食の材料やラベル・フロア活動で使用する装飾物・おたより作成にかかる素材集め等のPC作業
- ハウス野菜の計量や手入れ
- 施設内でのパンや野菜販売がある際の金銭のやり取りの訓練

（5）自立訓練

【総評】

職員内での連携、話し合い、検討、支援機関からの助言等を行いながら、個別支援計画を基に利用者様のニーズに添った支援を行っている。

### 【令和4年度掲げた課題】

- ① 稼働率の向上。
- ② 作業内容や活動が固定されがちである。個々の利用者様の可能性を広げる訓練の提供が十分とは言えない。
- ③ 個々の利用者様のその日の体調やストレス状況に合わせた柔軟な活動の提供のために、環境の整備や関わりの配慮がより必要である。
- ④ 利用者様に伝える時に、個々に合わせた伝え方（言葉のトーンや口調、短文で分かりやすく話す、紙に字を書く、写真を見せるなど）の工夫がより必要である。
- ⑤ コロナ禍で、利用者様が安心・安全な気持ちで体調を崩すこと無く継続して通所出来る様に支援が必要である。

### 【取り組み報告】

- ① 前年度に比べ、ラボラーレに興味を持って頂いた利用者様も多く、2名→4名に増え稼働率が向上しているが、定員には達していない。今後も、見学者様等に施設の魅力を伝え増員に取り組んでいく。
- ② 農業班と協力を得ながら様々な作業提供を行い、作業内容の幅を広げた。個別支援計画を基に、個々の能力に合わせた作業を提供し、野菜の種まき～収穫、出荷の納品準備、ブルーベリーの収穫、園芸店から委託された花の種まき、ポット入れ、ポットの土入れ、環境整備など、楽しみをもちながら互いに声を掛け合い協力し取り組んで来た。

新たな取り組みとしてボランティア活動で徒歩や車で移動できる範囲ではあるが、桃生町内（植立山公園、桃生総合センターなど）と豊里町内（豊里水辺の公園、豊里町民グラウンドなど）のゴミ拾いを行い、地域の方との交流の中で挨拶の練習やマナー訓練を行い、地域の方との挨拶や会話で笑顔が見られた。又、町内新聞社から取材があり記事になっている。今後も、職員内で連携を取りながら利用者様の可能性を広げられる様に、広い目線で提供していく。
- ③ 利用者様との関わりの中で、コミュニケーションと気づき、信頼関係を大切に支援に取り組んできた。利用者様からの訴えや不調時などは速やかに対応し、解決へ繋がる様に心がけてきた。変化がある日々の中、固定した考えでは無く利用者様にとってどの様に支援を進めていくか柔軟な考えで、職員内で検討、実施、再検討を繰り返し取り組んで来た。時には、専門機関から助言頂きながら利用者にとって良い方向へ繋げられる様に取り組んで来たが、効果的な支援に繋がらない難しい課題も多くあった。今後も、職員内で連携し状況に応じて関係機関からの助言を頂きながら、柔軟な考えで効果的な支援に繋がる様に全体で取り組んでいく。

- ④ 伝える時に、早口や聞き取りにくい言葉になる等の課題もあり伝える事の難しさを感じた。個々に合わせた伝え方（言葉のトーンや口調、短文で分かりやすく話す、紙に字を書く、写真を見せるなど）を工夫し、分かりやすく伝わる様に取り組んでいる。聞いた内容が分かる事で、本人が安心し自信をもってスムーズに行動が出来ていた。
- ⑤ 通所から帰宅までの検温、体調確認、移動時の運転など利用者様が「安心」「安全」な気持ちで活動出来る様に取り組んで来た。不安や悩みなどの相談があった時は、利用者様の気持ちに寄り添い速やかに解決へ繋がる様に支援を行った。コロナ禍における不安の中でも、少しでも楽しさを感じてもらえる様にコミュニケーションを図り活動してきた。

#### （6）日中一時支援事業

##### 【令和4年度掲げた課題】

- ① 継続して利用いただいている方の中には、一度休みが続いてしまうとその後しばらく休みがちになってしまう傾向もみられる。
- ② 稼働率の向上。

【総評】日中一時支援の利用定員は5名であったが、体調不良や新型コロナウイルスへの不安から休みがちな利用者様もあり、平均すると一日あたり3.2名の利用で稼働率も年間平均65%となっている。

##### 【取り組み報告】

- ① 休みがちな利用者様に対しては、電話での利用への促しに加え、相談事業所の担当者の方と本人も交え、通所する目的などを再確認する会議をおこなっている。
- ② 稼働率の向上に関しては、休みがちだった利用者様の利用回数の増加や、新規で毎日利用の方が加わったことで、次年度は向上が見込めるが、引き続き次の利用に繋がるような支援をおこなっていく事で、安定した稼働率を目指していく。

#### 6. 令和4年度 就労状況

##### \*就労状況

・就職者 0名

##### \*就労への取り組みとして

○就労継続支援B型利用者様の施設外就労

・登米市公園（通年）

○イトーヨーカドー、イオンでの物販活動

○ハローワーク、就業生活支援センターとの連携

○求人票の掲示、更新

○地域企業とのつながりの構築

○就労へのモチベーション向上（利用者及びご家族）

7. 職員の資質向上策と福利厚生 および施設に関する事項

(1) 外部研修参加状況

変化の激しい社会福祉施設とニーズの多様化へ対応するため以下の研修へ参加し、ミーティングを利用し研修参加者による報告会を開催し、職員各々の資質の向上に努めた。

月日	研修名	研修内容	場所	参加者
5/18	スキルアップセミナー	発達障害の支援	からころステーション	宗子・真樹
5/19	介護講座	レクリエーション	宮城県介護研修センター	津田
6/2	講習	安全運転講習	河北ビックバン	央
6/7	介護講座	認知症の医学知識	宮城県介護研修センター	真樹
6/13	介護講座	食事（いつまでも美味しく食べるための魔法）	宮城県介護研修センター	遊佐
6/17	集団指導	障害福祉サービス集団指導	ラボラーレ登米施設内 (zoom 使用)	萬代
6/27	介護講座	コミュニケーション能力を向上させるには	宮城県介護研修センター	津田
7/4	介護講座	ボディメカニクスと安心・安全な介助	宮城県介護研修センター	真樹
7/12	介護講座	高齢者のかかりやすい病気とその対応	宮城県介護研修センター	鹿野
7/21	介護講座	口腔ケアの重要性とその効果	宮城県介護研修センター	真樹
8/8	感染対策強化	新型コロナウイルス感染症対策研修会	ラボラーレ登米施設内 (zoom 使用)	鹿野
9/7	介護講座	高齢者の摂食・嚥下障害の基礎知識	宮城県介護研修センター	遊佐
10/11	展示会	製菓大展示会	夢メッセみやぎ	かほる 若山
10/14	介護講座	『聴く』技術	宮城県介護研修センター	遊佐
10/24	介護講座	失語症	宮城県介護研修センター	真樹
12/21	スキルアップセミナー	アルコール依存症	からころステーション	遠藤 三田



#### 10. (1) 令和4年度 ラボラーレ内行事実施状況

月日	行事名	内容	場所
10/7	秋を感じる芋煮会	ピクニック レクリエーション	ラボラーレ
毎月	祝日に係る催事	利用者様も交えての催事	ラボラーレ

※秋を感じる芋煮会においては、感染対策を行いながら、野外でスポーツ、レクリエーション等を企画しコロナ禍におけるストレス発散の機会を設けた

#### (2) 地域交流行事

令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、地域交流行事等は行っていない。

#### 11. 地域における公益的取り組み

・高齢者世帯の方、障がい者を対象に、栄養バランスの摂れた食事を低価格で味わっていただきながら、交流の機会を提供した。

## 8. 見学者並びに訪問者の受け入れ状況

主に相談事業所との連携のもと積極的に受け入れをし、ラボラーレの活動について多くの方に知って頂く機会を設ける取り組みを行った。

### \*施設見学者

月日	見学者件数	見学者数
4月～9月	8件	14名
10月～3月	5件	8名
合計	13件	22名

※個人での見学、他施設職員・保護者など

### \*支援学校実習・職場体験

- ・船岡支援学校 1名実習
- ・古川支援学校 1名実習
- ・桃生中学校：2名職場実習

## 9. 避難訓練の実施状況

通報、消火、避難誘導、乗車訓練、屋内退避等の動きを職員一人一人が理解し行動、訓練することで、非常時においても適切な対応がとれるよう、また利用者様が落ち着いて避難できるように以下の訓練を実施した。また、新規職員が新たに加わったこともあり、マニュアルの確認を行っている

### 避難訓練の内容

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、消防署の立ち会いは依頼せず、報告のみ行なっている。

月日	訓練	内容	参加人数	
			利用者	職員
12/1	総合避難訓練	地震・火災	34名	19名
3/24	総合避難訓練	地震・火災	38名	18名

#### 10. (1) 令和4年度 ラボラーレ内行事実施状況

月日	行事名	内容	場所
10/7	秋を感じる芋煮会	ピクニック レクリエーション	ラボラーレ
毎月	祝日に係る催事	利用者様も交えての催事	ラボラーレ

※秋を感じる芋煮会においては、感染対策を行いながら、野外でスポーツ、レクリエーション等を企画しコロナ禍におけるストレス発散の機会を設けた

#### (2) 地域交流行事

令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、地域交流行事等は行っていない。

#### 11. 地域における公益的取り組み

・高齢者世帯の方、障がい者を対象に、栄養バランスの摂れた食事を低価格で味わっていただきながら、交流の機会を提供した。